

令和4年度「Kii-Plus 地域学生プロジェクト」実施報告書

活動テーマ		田辺市の偉人と SDGs	
キャッチ(タイトル)		わくわく出張大学 和大学生と一緒に学ぼう!! 田辺の偉人	
活動グループ	氏名	所属・学年	
	(グループ代表) 楠見樹梨	教育学部 研究科	3年
	(グループメンバー) 高垣真由子	教育学部 研究科	3年
	宿院祐里	教育学部 研究科	3年
	末廣千翔	教育学部 研究科	3年
	新納菜々子	教育学部 研究科	2年
	長尾咲良	教育学部 研究科	1年
	宮本ましろ	教育学部	1年
	仲美咲	教育学部	1年
氏名	学部	職名	
豊田充崇	教育学部	教授	
活動フィールドまたは 連携・協力する地域等	和歌山県田辺市		
グループ名(※1)	授業研究サークル WANT TO		
グループの公式 SNS/HP など URL(※1)	https://twitter.com/want_to_wadai https://www.instagram.com/want_to_wadai		

活動概要	<p>本活動は、紀南出身の2人の偉人 南方熊楠と植芝盛平について、大学生と共に学ぶイベントである。南方熊楠や植芝盛平は、共に今日の SDGs (持続可能な開発目標)や2025年度の大阪万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」にもつながる偉大な業績を残された方たちである。しかし、その成し遂げた分野は現代の子ども達にとって、身近に感じる機会は少ないのではないかと考える。ふるさとについて知ることは、自分自身のルーツに誇りをもつことにつながる。また、身近なものを題材にすることで、イベントを通して得た興味をその後自分自身で広げやすく主体的な学びを促進できる。その他、将来教職に就く大学生が授業を行う側となることで、大学生にとってもよい学びの場となり、未来のよりよい教育につながると考えられる。このような流れから、①体験活動を通して2人の偉人に興味をもってもらう②ふるさとに誇りをもってもらう③将来教職に就く大学生の、地域理解や教師力向上を図るの3つをねらいとして、イベントを実施した。</p> <p>日時:第1回 3月11日(土)13時~16時 『南方熊楠』 第2回 3月18日(土)13時半~16時 『植芝盛平』(計2回)</p> <p>場所:第1回 田辺商工会議所特別会議室→南方熊楠顕彰館 第2回 田辺商工会議所特別会議室→植芝盛平記念館(田辺市立武道館)</p> <p>参加者:田辺市に住む小学校4~6年生 (希望者は、兄弟姉妹や保護者も一緒に参加) 第1回 小学生20名 大学生6名 第2回 小学生6名 大学生6名</p> <p>参加費:無料(交通費は自己負担)</p>												
活動内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日時</th> <th>内容</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2022年10月~11月</td> <td>イベントの内容決定 スノードームの試作</td> <td>和歌山大学</td> </tr> <tr> <td>2022年12~1月</td> <td>イベントのチラシ作成 チラシの印刷</td> <td>和歌山大学</td> </tr> <tr> <td>2023年2月</td> <td>チラシの配布 (田辺市の小学4~6年生、田辺市の公民館、協力機関等) 参加者の募集</td> <td>チラシ:田辺市教育委員会へ封筒で送付 募集:-googleフォームにて受付</td> </tr> </tbody> </table>	日時	内容	場所	2022年10月~11月	イベントの内容決定 スノードームの試作	和歌山大学	2022年12~1月	イベントのチラシ作成 チラシの印刷	和歌山大学	2023年2月	チラシの配布 (田辺市の小学4~6年生、田辺市の公民館、協力機関等) 参加者の募集	チラシ:田辺市教育委員会へ封筒で送付 募集:-googleフォームにて受付
日時	内容	場所											
2022年10月~11月	イベントの内容決定 スノードームの試作	和歌山大学											
2022年12~1月	イベントのチラシ作成 チラシの印刷	和歌山大学											
2023年2月	チラシの配布 (田辺市の小学4~6年生、田辺市の公民館、協力機関等) 参加者の募集	チラシ:田辺市教育委員会へ封筒で送付 募集:-googleフォームにて受付											

2023年2月11日	田辺市での事前学習	南方熊楠顕彰館 植芝盛平記念館
2023年2月25日	事前訪問と打ち合わせ	南方熊楠顕彰館 植芝盛平記念館
2023年3月	イベントの準備 (買い出し、試作、授業のパワーポイント作成、リハーサル等) 参加者への事前連絡	和歌山大学 連絡:メールにて送信
2023年3月11日	イベント第1回『南方熊楠』	田辺市商工会議所 南方熊楠顕彰館
2023年3月18日	イベント第2回『植芝盛平』	田辺市商工会議所 田辺市立武道館 (植芝盛平記念館)
2023年3月後半	参加者へのアンケート実施	メールにて送信

<イベント第1回>

3月11日(土)13時~16時(受付12時半開始)

テーマ『南方熊楠を学ぼう』

~スケジュール~

13:00~13:10 田辺商工会議所特別会議室に集合
大学生による授業『南方熊楠とは?』『粘菌とは?』

13:10~13:30 土永先生によるお話(映像や実物の紹介)

13:30~15:20 自分の好きな粘菌を図鑑から選び、粘菌スノードームづくり

15:20~15:30 南方熊楠顕彰館へ徒歩で移動

15:30~15:50 南方熊楠顕彰館・南方熊楠邸の見学

15:50~16:00 田辺商工会議所へ移動・解散

<イベント第2回>

3月18日(土)13時半~16時(受付13時開始)

テーマ『植芝盛平を学ぼう』

~スケジュール~

13:30~13:50 田辺商工会議所特別会議室に集合
大学生による授業『植芝盛平とは?』『合気道とは?』

13:50~14:00 植芝盛平記念館へ徒歩で移動

	<p>14:00～14:30 植芝盛平記念館内の見学</p> <p>14:30～15:55 武道館サブアリーナで合気道体験 講師:五味田潤一先生 準備体操(10分) 礼法・構え方・受け身・足の運び方(25分) 技の体験(40分) 演武デモンストレーション(5分) 質疑応答(5分)</p> <p>15:55～16:00 記念撮影・解散</p> <p><イベント後に実施したアンケートの質問項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加のきっかけは何ですか? ・参加した日の授業はどうでしたか? ・一番楽しかったことは何ですか? ・あまり楽しなかったことは何ですか? ・今回のイベントの感想・ご意見をお聞かせください。 ・今後参加してみたいテーマなどがあれば、ご記入ください。 ・「和歌山大学生への一言メッセージ」をお願いします!
活動写真(※2)	別途ファイルで添付。
活動成果	<p><子ども達の様子></p> <p>全体的に、皆真面目にしっかり話を聞いてくれ、メモを取っている子も多く見られた。違う小学校に通う子どもが多数集まっているということもあり、初めは緊張しているようだった。しかし、大学生や周りの友達と話したりスノードームづくりや合気道体験などの体験的な活動をしたりするうちに、活発に楽しんでいる姿が見られるようになった。</p> <p>コロナ禍でイベントの多くが中止となり、子ども達は他校の友達と関わる機会が少なくなっていたと考える。今回のイベントは子ども達のコミュニティーの輪を広げるという意味でも、意義があったと考える。</p> <p><大学生の授業></p> <p>「勉強」と感じ過ぎず、しかし「遊び」だけでは終わらない、学びと遊びの融合を目指して授業を行った。子ども達にとって難しい内容もあったと考えるが、しおりの配布、クイズ形式等の工夫により、楽しんでもらえたようだった。また、年の近い先生ということで、親しみやすかったのだと考える。実際に、土永先生(南方熊楠顕彰館職員)から「大学</p>

生の口から、大学生の切り口で伝えることに意味がある。」という言葉をいただいた。大学生がワクワクしたことを授業にし、伝えることで、そのワクワクは子ども達にも届くということが実感できた。

<第1回スノードームづくり>

参加者がほぼ定員いっぱいであったが、一つのテーブルに一人の学生がつくことができた。また、事前にスノードームづくりの試作や模擬授業等準備をし、難しい点や改善点を大学生で話し合う機会を設けていたため、当日の支援につなげられることができた。日頃から教育ボランティア等で子ども達と関わっている学生が多かったため、子ども達の様子をしっかりと把握したり一人ひとりとコミュニケーションをとったりすることができたと感じる。子ども達が帰ってからも、子ども達の発想力の豊かさや工夫の素晴らしさ、注目するところの鋭さ等の話題で、話が尽きなかった。

<第2 回合気道体験>

「植芝盛平」は第1回の「南方熊楠」よりまだ認知度が低いからか、参加者は6名と少人数であった。しかしその分、一人ひとりと深くかかわることができ、合気道体験の時間も十分に確保することができた。参加者は「お兄ちゃんが合気道をしている」という子から「普段は野球を習っていて、武道にはあまり興味がない」という子まで様々であった。合気道体験は初心者向けに五味田先生がスケジュールを考えてくださっていたので、どの子も楽しめていた。1人でする技だけではなく2人1組になり協力して取り組む技も多く、より合気道の「争わない」「平和を希求する」という心を学んでもらえたと考える。

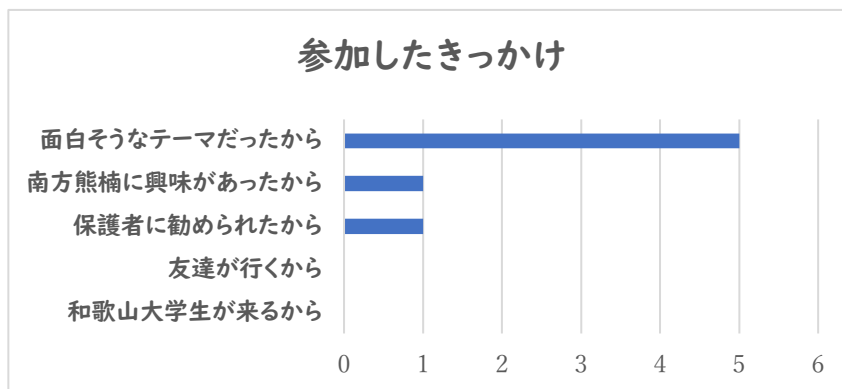
合気道の体験はもちろんだが、「武道場の畳をはだして踏む」という経験も多くの子供達も初めてだったようで、「気持ちいい!」と感動していた。大学生にとっても初めての合気道体験で、子ども達と共に感動や学びを共有できた。

<田辺市での活動>

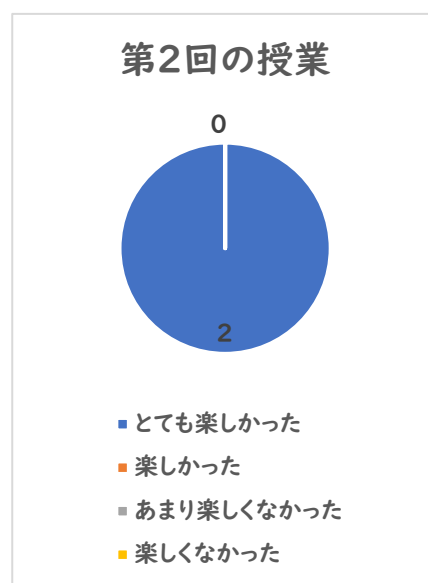
田辺市に足を運んだことで、これまで知らなかった田辺をたくさん知ることができた。それは、イベントを通して関わった南方熊楠顕彰館や植芝盛平記念館、田辺商工会議所だけではない。移動の際に商店街を歩いたり、田辺市で昼食をとったりすることで、田辺の新たな良さに気付くことができた。実際にその地に訪れることで身をもって田辺の良さや特色を実感し、「また来たい!」と感じた。田辺の良さを伝えるだけでなく、田辺の良さを知る・体感するという面でも、このイベントは「地域活性化」に大きくつながったと考える。

<アンケート結果>参加者 21 人中 6 人が回答

★参加のきっかけは何ですか？(複数回答可)



★参加した日の授業はどうでしたか？



★一番楽しかったことは何ですか？(記述式)

<第1回>⇒全員が「スノードームづくり」と回答。

<第2回>⇒全員が「合気道体験」と回答。

★あまり楽しくなかったことは何ですか？(記述式)

<第1回>⇒1名が「南方熊楠顕彰館」と回答。その他は「なし」。

<第2回>⇒全員が「なし」と回答。

★今回のイベントの感想・意見(記述式)

<第1回>

・「お兄さん、お姉さんが丁寧に教えてくれたので、楽しく学べたようです。最後に手作りに作ったスノードームを上手と言ってもらえて、嬉しかったです。」

	<p>・「楽しく学べて良かったです。南方熊楠(粘菌)について、普段耳にはしても学ぼうという機会はなかなか無かったので良い経験になりました。」</p> <p>・「熊楠についてよく知れました。楽しかったです!」</p> <p>・「長かった。」</p> <p><第2回></p> <p>・「植芝盛平を知らない同級生が多くて残念、すごい人なのに」と終了後の帰り道に息子が呟いたので、とても素晴らしいイベントだったのだと思います。ありがとうございました!」</p> <p><両日参加></p> <p>・「どちらも母の私が興味があり、でも親が教えるより、お兄さんお姉さんのな大学生の方に教えてもらったりする事で、より吸収しやすく、興味を覚えられた様に思います。帰ってきて、楽しかった!!とすぐ言うていたので、本当に感謝です!!」</p> <p>★今後参加してみたいテーマ(記述式)</p> <p>・「養殖(魚)について」</p> <p>・「浜口ごりょうさんについて」</p> <p>★和歌山大学生への一言メッセージ(記述式)</p> <p>・「学ぶ大切さ、楽しさを教えてくださり、ありがとうございました。」</p> <p>・「優しく丁寧に教えて頂きありがとうございました。学校の自学勉強で、今回の学びを書き提出すると先生に褒められたと喜んでいました。」</p> <p>・「また何か出張大学を開いてください。熊楠のは、とても楽しかったし、よかったです!」</p> <p>・「ありがとうございました。」</p> <p>・「コロナ禍でずっとイベントが無くなっていた中、地元の偉人なのに詳しくはよく知らない??お二方を分かりやすく理解&体験させて頂き、感謝です。」</p> <p>・「先生はとても大変なお仕事かと思いますが、がんばってください。素晴らしいイベントをありがとうございました!」</p>
獲得した学び	<p>今回のイベントを通して私達が得た学びは、3つある。</p> <p>1つ目に、田辺市の多くの子ども達は「田辺」について学校でよく学んでいて肯定的なイメージを持っているということだ。南方熊楠のイベントでは、「南方熊楠が好きだから、参加した!」という子もいて、本当に嬉しかった。保護者の方によると、学校での学習をきっかけに南方熊楠にはまり、自分で調べているという。子ども達は自分達の地域について無関心なのではなく、むしろ興味や好奇心、未来をつくる可能性の種をたくさん持っているということに気づくことができた。同時に、そのような種を開花させられる機会づくりを、私達大人は心掛けていくことが大切だと感じた。授業づくりにおいては、</p>

田辺市の小学生、特に高学年の子ども達は学校で偉人についてある程度勉強しているということもあり、そのような子ども達にも楽しんでもらえる、新たな発見をしてもらえるイベントを考えるのは大変だった。しかし、大学生の切り口という新しさ、体験活動という学び方などにより、イベントに積極的に参加してもらえたように感じた。また、今までは「子ども達が知らないことを教える」ことにこだわっていたが、「それ、知っているよ!」と大学生や他校の友達に教える場面があることも、学び合いの空間が生まれるという点でよいことに気が付いた。実際に、熊楠が好きなものを教えてくれたり、熊楠の部屋の前で「あらゆるところに菌がいるかもしれないから家族にも部屋に入らないように言っていたんだって!」と豆知識を教えてくれたりと大学生が「子ども達から学ぶ」という場面はたくさんあった。大学生が先生側、子どもが学ぶ側と固定してしまうのではなく、時には逆転もできる、そのような柔軟な関係が築けるのも、大学生がイベントを主催する良さなのかもしれないと気づいた。既に知っている知識を他者に伝えることで、学びはより一層深まる。また学びを共にして得た喜びや楽しさは、きっとその先のあらゆる学びに好影響を与えると考える。学校での学びも大切だが、それを更に発展させるための多様な学びの場、多様な学び合う仲間をつくっていくことがこれからの社会で必要となると感じた。

2つ目に、五感をつかった体験の大切さだ。特に、「本物に触れる」ことの大切さを実感した。例えば、南方熊楠顕彰館の土永先生が粘菌の標本を持ってきてくださった際、「思ったより粘菌って目で見えるんだ」「やっぱり少しねばねばしているね」などの会話が聞こえ、子ども達は目を輝かせながら細かく観察していた。また、南方熊楠顕彰館ではしっかりとメモをし、「帰ったら今日覚えたことを家族に教えてあげたい!」と嬉しそうに話している様子も見られた。「本物」にはやはり先人の思いや願い、大切にしてきたものの価値を伝えるパワーがある。「本物」と対話することの意義を実感できた。その他、体験活動には、「子ども達が身近に感じにくいものを子ども達に近づける力」があることにも気付けた。このイベントには「保護者の勧めで参加することにした」とはじめは乗り気ではなかった子も一定数いた。しかし、活動は積極的に参加してくれており、アンケートでは「とても楽しかった」と答えてくれていた。実際に第1回では「粘菌の美しさ」をスノードームづくりという活動を通して、第2回では「合気道の精神」を合気道体験を通して実感してもらえた。また、当初予定していなかった小学校低学年の子どもも参加してくれていたが、とても意欲的に活動していた。切り口を少し工夫することで、対象年齢や学ぶ題材は想像以上に幅を広げられると気づいた。現在の学校教育では、主に小学校の中学年～高学年で地域学習を取り上げているところが多いが、体験活動を入れ工夫することで、六年間で一貫したテーマを扱い内容を深めていく学習も可能ではないか、と感じた。

3つ目に、イベントを一から企画することの難しさとその力を身に付けることの必要性だ。今回はイベントの内容決定から場所の確保、広報、協力機関への依頼、実施等の

全てを学生主体で行った。何もかもが初めてで分からない事ばかりで、地域の方々や大学職員の方々にはとても助けていただいた。また、書類の提出等も一から教えていただいた。ご迷惑をおかけしてしまったことが多々あったが、その分とてもかけがえのない学びを得ることができた。これからの教員には、学校と地域とを結び付ける教育を創造していくことが求められている。このようなかけがえのない経験をさせてくださった周りの方々に感謝の思いをもつとともに、今回数多く失敗して、またその分数多くの感動を得て経験して学んだ力を生かして、社会に出ても頑張っていきたいと感じた。

このように、今回のプロジェクトは子ども達にとっても学生にとっても大きな学びとなったと考える。教育を通しての地域活性化はすぐに効果が現れるものではないが、長期的な視点ではとても重要な役割を担っていると考える。このプロジェクトが田辺の未来の活性化につながるかどうかは、このイベントの成果よりもむしろ今後の私達の行動にかかっていると考える。その自覚のもと、これからもこの経験を生かして大学生一同励んでいきたい。

※1 必須ではありません。ある場合のみ記入してください。

※2 別途画像ファイルも合わせて提出してください。